

第2回(仮称)第3次都心まちづくり計画検討会

【目次】

1 第1回検討会・各部会のふりかえり	…… 3p
2 市民・来街者意向把握調査の概要(速報)	……11p
3 計画構成案	……13p
4 『(仮称)第3次都心まちづくり計画』事務局骨子案	
序章 計画策定の背景 -2計画統合の趣旨-	……15p
1章 計画の目的と位置付け	……16p
2章 都心まちづくりの現状と課題	……17p
3章 都心まちづくりの理念・目標と都心の構造	……20p

2024年9月17日

札幌市 都心まちづくり推進室



◎本日、ご議論いただきたいこと

論点1 計画構成案について

論点2 都心まちづくりの理念・目標について

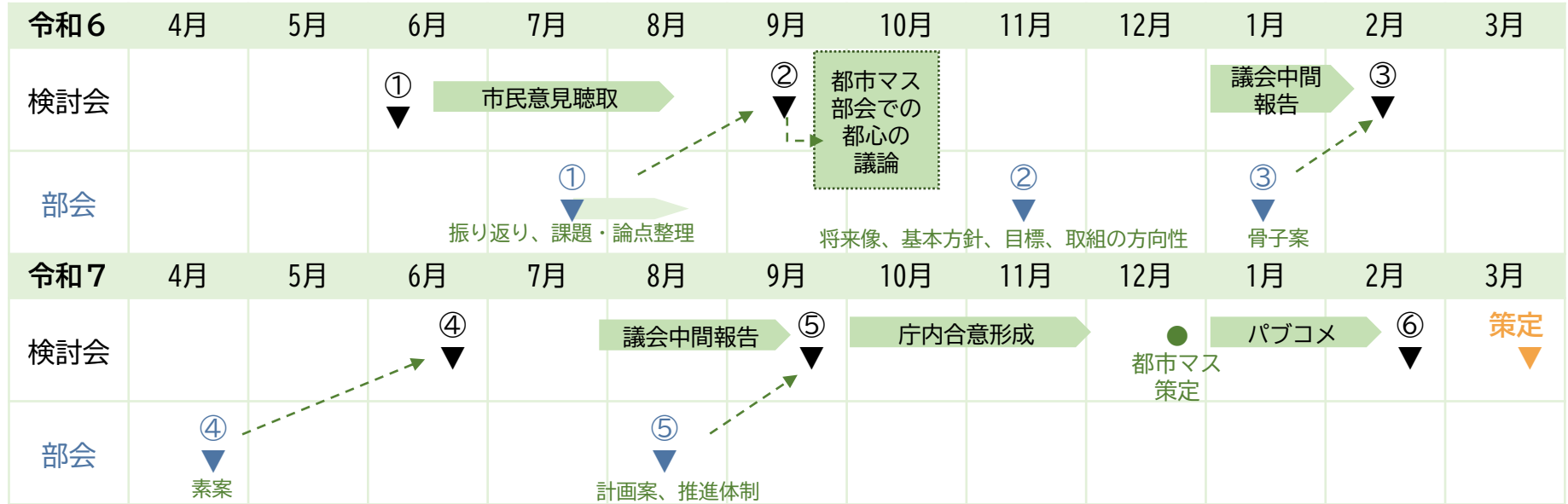
- ✓ 理念・目標案への意見
- ✓ 付加すべき要素 など

論点3 都心の構造について

- ✓ 構造の要素への意見
- ✓ 骨格構造案への意見 など

1 第1回検討会・各部会のふりかえり

(1)スケジュール・進め方



検討会での検討テーマ（案）

令和6年度	第1回	経緯、論点整理、進め方
	第2回	目標、将来像、都心の構造の整理
	第3回	基本方針、重点戦略、推進体制
令和7年度	第4回	素案、指標
	第5回	計画案
	第6回	最終案

部会での検討テーマ（案）

令和6年度	第1回	課題認識、見直しの視点の整理
	第2回	基本方針、目標、取組の方向性
	第3回	骨子案
令和7年度	第4回	素案
	第5回	計画案、推進体制

1 第1回検討会・各部会のふりかえり

(2)第1回(仮称)第3次都心まちづくり計画検討会(令和6年6月6日 13時~15時開催)

論点	委員意見の抜粋	必要な視点の整理
1 今後20年で 札幌の都心 が目指す姿・ 将来像を描 くにあたり 必要な視点 について	<ul style="list-style-type: none">● 都市開発と産業政策とを両輪で取り組むという視点を加えていただきたい● 外貨を稼ぎ投資を生む成長産業として観光客を受け入れ、マネジメントし、域内循環・域内波及効果を高めていくべき	<ul style="list-style-type: none">● 産業振興・経済をけん引していく視点
	<ul style="list-style-type: none">● 産業創出やイノベーションに関し、大学との連携という視点もあればよい● 社会実験を受け入れるまちだと標榜することによって、新しい技術や産業が生まれる方向に進んでいけるのではないか● 市民が行きたくなる都心でありながら、世界中の人が行きたくなるまちにし、なおかつ地域の社会課題の解決を目指すまちが大事● 観光を、地域間交流により地域変容・ダイナミズムが起こるものとして再定義すべき	<ul style="list-style-type: none">● イノベーションや新しい価値を創出するための視点
	<ul style="list-style-type: none">● サードプレイスなど、人が直接的に交流する機能を今まで以上に都心として編み出し続けていかなくてはならない● 人・情報・技術を結び付けるものに文化・芸術を加え、教育にも繋げていけるとよい● 住んでいる方にも過ごしやすい都心であるべき	<ul style="list-style-type: none">● 都心に求められる多様な機能
	<ul style="list-style-type: none">● オープンスペースが増え、市民の活用も増えていることは重要● 都心の中の公園での、にぎわいと居住されている方の憩いの機能とのバランスをどう取るかは大きな問題● 道路をはじめとした空間の再整備により、数十年後どれだけ満足して使ってもらえるかが重要	<ul style="list-style-type: none">● 札幌らしさ、強み、優位性
	<ul style="list-style-type: none">● ビジネスの部分と観光都市の機能が両立しているまちであることは特徴的● 来街者が北海道や札幌の魅力に気づき、さらにビジネスの魅力として捉えてもらえるかどうか今後の都市の成長力に関わってくる● 再生可能エネルギーを比較的容易に活用できる立地を生かすべき● 札幌の規模で密度を高めていくことが正しいかをよく考えて進めるべき	

1 第1回検討会・各部会のふりかえり

(2)第1回(仮称)第3次都心まちづくり計画検討会(令和6年6月6日 13時~15時開催)

論点	委員意見の抜粋	必要な視点の整理
1 今後20年で 札幌の都心 が目指す姿・ 将来像を描 くにあたり 必要な視点 について	<ul style="list-style-type: none">● 人口減少とカーボンニュートラルを制約条件として、求められる機能を満たしていく必要がある● 道内他市町村に対して、都心が教育・文化・医療等サービスを提供することも求められる● みどりについてきちんと位置付け、みどりづくりをやっていかなければいけない● 雨水を取り込んで処理することも必要● 自然環境や生態系を活用し、都心のエネルギー消費も節約できるのではないか● 交通におけるCO2削減をマネジメントにより解決すべき● 新築ではなくリノベーションにより付加価値をつけていくことに対して、行政が支援し実現性を高めていくとよい● コストをどう抑えてサステナブルなまちをつくっていくか考える必要がある	<ul style="list-style-type: none">● 人口減少社会への対応● 北海道の中での位置づけ● 気候変動への対応、持続可能なまちづくりの視点
2 より実効性 のある計画 にするため に必要な視 点について	<ul style="list-style-type: none">● コミュニティを形成したり、エコシステムを構築する役割を担う人を置くことが大事● 社会実験を受け入れる体制を整えるべき● 公民連携事業を促す取組と計画づくりとが並行で進むとよい● 札幌駅周辺の工事期間が長期化し、機能や利便性の低下が見込まれるため、その間をどう繋いでいくか考えるべき● 都心の中で同じようなことがあちこちで起こるのはあまりよくないので、各エリアの機能やコンセプトを明確にすべき● 分野別の取組だけでは相乗効果は出ないので、横串を刺し、その効果を見えるようにしないといけない● 課題の前に現時点の評価や振り返りが必要● 新たな価値を明確にし、どう評価していくかが大事	<ul style="list-style-type: none">● 推進体制、仕組み● 計画のあり方

(仮称) 第3次都心まちづくり計画の検討体制

- 「居心地が良く歩きたくなる都心まちづくり」と「都心の脱炭素化に向けたエネルギー施策」を次期計画の深掘りすべき論点に位置づけ、2つの部会を設置。

(仮称) 第3次都心まちづくり計画検討会

<第一部会>

居心地が良く歩きたくなる
都心まちづくり検討部会

- 札幌の顔である都心ならではの都市文化を育み、多様性のあるまちづくりを進め、都市生活の質の向上を図るには、**官民が持つ様々なパブリックスペース**を一体的に捉え、**人と人が出会い、滞留し、交流することができる活用しやすい空間**へと変えていくことが必要。
- 様々な活動を支える**交通機能の維持向上**を図りつつ、**積雪寒冷地における居心地が良く歩きたくなるまちづくりを進めるための方針等**を検討。

第1回 8月29日開催

<第二部会>

都心の脱炭素化に向けた
エネルギー施策検討部会

- 世界的な**脱炭素化**の潮流を捉え、国内外に札幌の価値を発信していくためには、社会・経済活動の中心地である都心において、今後のまちの更新に合わせ、**継続した先導的な取組**が求められる。
- エネルギープランに沿ったこれまでの取組を礎に、**再エネ電力の導入拡大方策**や**既存エネルギーネットワークを受け皿とした将来的なエネルギー転換、災害対策**等を、計画体系の整理と併せ検討。

第1回 7月29日開催

1 第1回検討会・各部会のふりかえり

(3)第1回<第一部会>(令和6年8月29日 14時~16時開催)

■課題認識・検討の視点に対するご意見

項目	課題認識	検討の視点	各委員からのご意見
<p>札幌都心ならではの魅力的な「ストリートの形成」(ハード)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 格子状の街路網は街並みが単調になりがちであることから、ストリートの魅力や個性を高めていくことが重要 ● 季節や天候、目的等によって選択性が高く、多様性に富み、安全・快適な移動経路が必要 ● 積雪寒冷地特有の地下での移動ニーズと地上部の賑わいの両立が重要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 格子状の街路網における見通しの良さを生かした通りの景観形成や交差点における辻空間の魅力付け(線と点のデザイン) ● 沿道の土地利用と一体となった街路空間の形成 ● 路線や区間によって変化のある空間の形成 ● 各エリアをつなぐ回遊、賑わい、交流の基軸となる象徴的なストリートの形成 ● 沿道の土地利用とも連動した地上・地下の重層的な歩行者ネットワークの形成 ● 積雪期の魅力と賑わいも考慮した札幌ならではのストリートの形成 	<p>魅力的なストリートの形成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居心地が良い景観があり、変化が感じられることで様々な行動が生まれる。 ・街区のサイズが大きいことも考慮するとよい。 ・場所や通りの性格を分けて考えていくのがよい。 ・どの場所でするのか。場所の特徴を踏まえた使い方を考えたほうがよい。 ・都心に来る理由(商業施設、仕事など)を踏まえて、建物用途のあり方も同時に考えていく必要がある。 ・個性豊かな小規模な開発に対しても制度上の支援があるとよい。 ・耳から入る情報で歩いて楽しいまちづくりを考えてもよいかもしれない。 ・まちなかのみどりが意外と少なく、緑視率が低い。緑陰が大事。 ・通勤や買い物途中に季節や時間の変化を感じられる視点も考えたほうがよい。 ・居心地が良いというのは、道路だけでは実現できない。空間(建築的な要素)が必要。 ・官と民が境界に対して相互に乗り入れることが最終的な「居心地が良く歩きたくなるまちづくり」の方向性かと思う。
<p>都心のまちづくりを支える「交通機能の維持・向上」(ハード)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● それぞれの交通機能(※)を確保しつつ、限られた道路空間等を全体として効果的、効率的に活用することが重要 <p>※交通機能：自転車、荷捌き、公共交通(バス、タクシー等)、一般交通、駐車施設等</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 北海道新幹線札幌延伸、新たなバスターミナルや都心アクセス道路の整備、新たな公共交通システムの導入などの将来の交通環境の変化を踏まえることが重要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各路線における交通機能と滞留機能のバランスや面的な機能分担 ● 都市活動を支える、荷さばきや人々の乗降などの空間の確保 ● 都心を目的地としない通過交通の分散等 ● 新幹線駅からの回遊動線の充実 ● 都心部の道路交通全体の機能分担 ● 既存の公共交通との接続の円滑化 	<p>交通機能の維持・向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客が運転する視点でわかりやすいサインなどが必要。 ・バリアフリーの視点も重要 ・将来的には新技術の活用による交通の円滑化も考えられる。 ・タクシーやバスなどの乗降場の確保も重要 ・都心にアクセスする手段としてのバスの利便性を考えると定時運行が重要であり、渋滞対策が必要 ・駐車場のあり方も考えていく必要がある。 ・商品が届くのは物流の機能があってこそ。荷捌きの機能の確保も必要。 ・車道を少なくしていく潮流もあるが、通行もしっかり確保していく必要がある。

1 第1回検討会・各部会のふりかえり

(3)第1回<第一部会>(令和6年8月29日 14時~16時開催)

■課題認識・検討の視点に対するご意見

項目	課題認識	検討の視点	各委員からのご意見
<p>歩きたくなる環境を向上させる「戦略的なマネジメント」(ソフト)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共的空間(※)の役割を幅広くとらえ、多様な活動や魅力的なコンテンツの創出により、賑わい・交流を促進することが重要 ※道路、公園、河川、公開空地等 ● 公共的空間において冬季の利用が落ち込む傾向があるが、雪という札幌の個性を生かすうえでも冬の利活用を促すことが重要 ● 居心地が良く歩きたくなる都心まちづくりの推進による効果を関連分野にも波及させることが重要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 限られた道路空間においては、利用実態を踏まえた効果的、効率的な運用が重要 ● エリアや建物等のコンセプトに合った多様な公共空間の利活用の促進 ● 柔軟かつ持続可能な利活用を実現する仕組みや体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 規制緩和やルールの特典化 ✓ プレイヤーの発掘・育成 ✓ 運営主体の資金確保 ✓ 市内外への積極的な情報発信など ● 冬季の屋外空間や地上・地下の屋内空間の柔軟な利活用 ● 時間別のニーズに応じたタイムシェアなどの柔軟な空間利用を実現する仕組みの構築 ● 健康(ウェルネス)、脱炭素(エネルギー)等の取組との連携 	<p>戦略的なマネジメントについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他都市の事例でも単にハード整備だけではなく、プレイスメイキング(ソフト)の視点でも取組が進められている。 ・公園などで人と人との交流が生まれるようなちょっとした仕掛けがあるとよい。 ・パブリックを自分事として捉える若者を育成するための教育の視点もあるとよい。 ・清掃等の活動に市民が積極的に参加するよう促すような動きも必要だと思う。 ・植樹の管理や広告なども含めて街のイメージアップを図ることが重要だと思う。 ・公開空地を有効活用できるような仕組みづくりが重要だと思う。(例えば、簡単な許可でパフォーマンスができるなど)

■全般的なご意見

意義・目的について	全体的な視点について	現状等の整理・評価について
<ul style="list-style-type: none"> ・実現したいこと(アウトカム)を明確にすると良い。 ・誰にとっても歩きたくなるまちづくりなのか、明確にして検討を進めるのがよい。 ・住んでいる人にとって楽しいものが、観光に来ている人も楽しいということが根本としてある。 ・こういった活動(必要活動、任意活動、社会活動)を生み出していきたいのか考えるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・快適な歩行空間を整備するだけではなく、滞留空間や公共交通も必要であり、深い概念と考えられる。 ・「居心地が良く」と「歩きたくなる」をしっかりと分けて考えると良い。 ・空間の活用だけではなく、交通、制度、マネジメントなどの視点でバランスよく考えていくことが重要。 ・回遊性の向上の視点や季節による違いを考慮して考えていくことが重要。 	<p>現状等の整理・評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都心には誰がどうやってアクセスしているのか明確にしたうえで考えると良い。 ・今までの取組についてしっかり評価した方がよい。 <p>その他の視点について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりGXの要素も踏まえるとよい。 ・まちづくりと公共交通をセットで考えていくことも考えるとよい。

1 第1回検討会・各部会のふりかえり

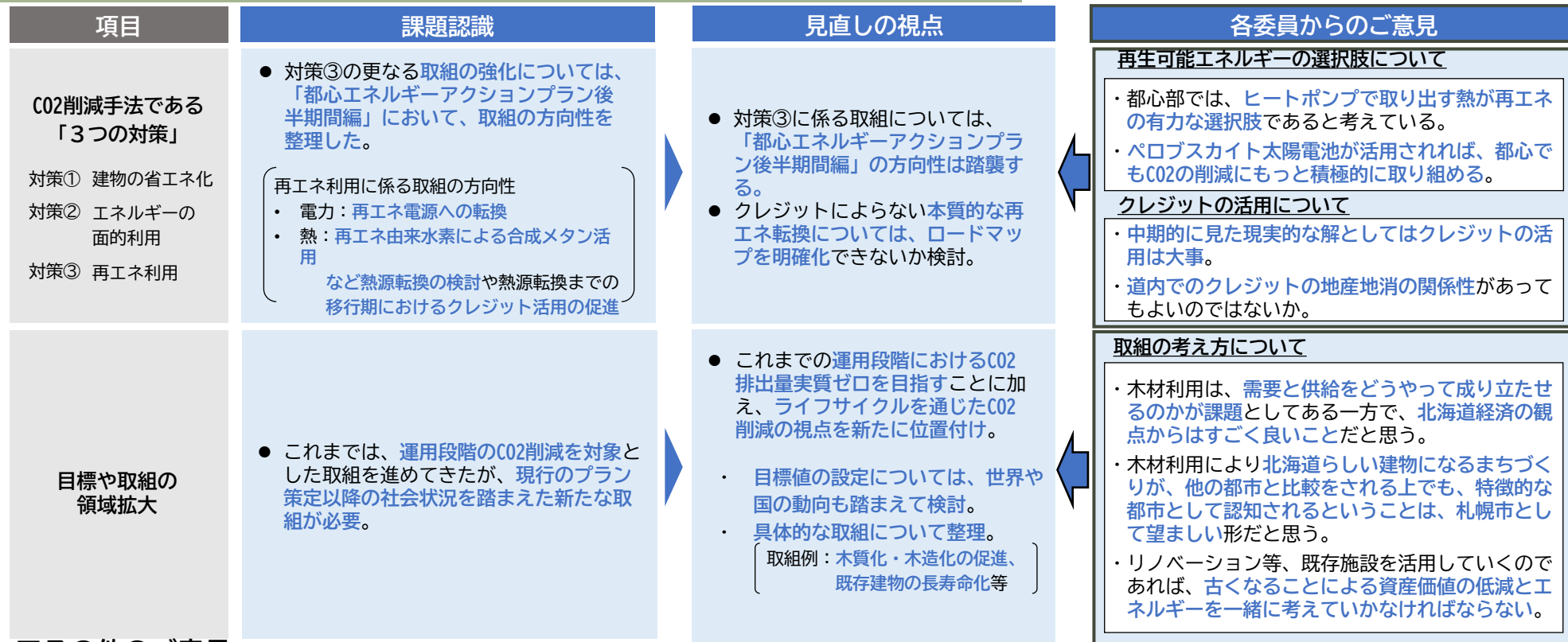
(4)第1回<第二部会>(令和6年7月29日 10時~12時開催)

■課題認識・見直しの視点に対するご意見

項目	課題認識	見直しの視点	各委員からのご意見
2050年CO2削減目標	<ul style="list-style-type: none"> 「2050年ゼロカーボンシティ宣言」を踏まえ、札幌市気候変動対策行動計画（2021年策定）において2050年ゼロカーボンを目指して設定。 一方、現行プランの2050年のCO2排出削減目標は、2012年比で80%削減となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運用段階における2050年のCO2排出削減目標を「実質排出量ゼロ」へ見直し。 	<p>「実質排出量ゼロ」に向けた課題感について</p> <ul style="list-style-type: none"> 低炭素と脱炭素ではレベル感が違う。マイルストーンを何年にどう置くか、時間軸を含めた議論ができれば良いと思っている。 バックカスティングの際、現在できていること、可能性、足りていないことを整理する必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> 現行プランでは、対策①②③の組合せによりCO2を80%削減する計画となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> CO2削減目標の見直しに伴い、対策①②③による削減割合の見直しや新たな対策を検討。 	<p>対策の見直し方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 2050年脱炭素に向けては、足元の実績、現状を踏まえ、より現実的に取り組んでいくために対策①②③の目標値のバランスを取る必要がある。
<p>CO2削減手法である「3つの対策」</p> <p>対策① 建物の省エネ化</p> <p>対策② エネルギーの面的利用</p> <p>対策③ 再エネ利用</p>	<ul style="list-style-type: none"> 対策①について、国による省エネ基準引き上げへの対応が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 国の動向などを踏まえつつ、「札幌都心E！まち開発推進制度」による協議を通じた誘導を引き続き実施。 	<p>誘導に関する民間ベースでの現状の課題感について</p> <ul style="list-style-type: none"> 建設費の高騰により容積率を上げたところで事業性を見出せないというのが昨今の状況。 容積率の緩和によらない支援策など、マーケットとの連携を考える必要がある。 インセンティブなのかペナルティなのか分からないが、札幌市でも実効性のある施策をつくっていないと、事業者サイドでは取組が難しい。
	<ul style="list-style-type: none"> 対策②については以下の課題認識がある。 ✓ エネルギーの面的利用の拡充は、大規模開発を契機とするエネルギーセンターの整備により進めることになるが、現状では創成東地区等において大規模開発の動向がないなど、計画的な展開が困難。 ✓ エネルギーの面的利用ができない建物における代替策が必要。 ✓ 既存エネルギーネットワーク内において、建替更新等に合わせたネットワーク接続が困難な場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 対策②に係る見直しの視点は以下の通り。 ✓ 大規模開発に寄らずに構築可能なエネルギーの面的利用の推進方策の可能性について検討。 ✓ 面的利用に替わる取組手法について検討し、多様な手法の組合せによるCO2削減の対策を整理。 ✓ 建物のネットワーク接続の拡大に向けた展開イメージを整理。 	<p>面的利用の拡大について</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境に見合ったコストを払っていただくためには、必要性などを訴えていくことが重要になってくる。 <p>面的利用に寄らない取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別分散の中で、分散型のエネルギーを作り、その建物において最大効率のシステムを導入することで都心の脱炭素が近づいていくと思う。

1 第1回検討会・各部会のふりかえり

(4)第1回<第二部会>(令和6年7月29日 10時~12時開催)



■その他のご意見

都心まちづくり計画等との関係性について

まちづくり計画との統合について

- プランを見る方々の視点に立って、分かりやすさなどを考えて取りまとめたいただけたら良い。
- 計画を統合していくことは、エネルギーに関する開発事業関係者の方の理解を得るにあたって非常に有効である。

他の取組との連携について

- Team Sapporo-HokkaidoでのGXの取組などと関連づけて、北海道全体に向けた働きかけや発信ができないか。
- 規制や仕組み作りなど民間にお願いするだけではなく、公共用地活用など公共側にもできることも考えていく必要があるのではないかと。

その他の視点について

マーケットにおける新しい価値の創出について

- グリーンなビルが選ばれるような仕組みを作っていくことを考えていく必要があるのではないかと。
- 脱炭素を進めることについてリテラシーを高めることで、脱炭素化の価値が市場に形づくられる。

強靱化について

- レジリエンスについて、系統電力の強化等、至近の状況を反映してプランの的確性を確認していくのがよいのではないかと。
- ゲリラ豪雨、大雪への備えなどにも取り組んでいかなければならないと思う。

C02排出状況の確認・評価について

- ロンドンでは開発に際し、「省エネ」「面的利用」「再エネ利用」に加えて、C02排出量をどれだけ削減できたかを確認する取組が導入されているが、札幌都心においても、E！まち開発推進制度により一定程度の規模については、C02排出状況を報告することになるが、これをもっと進めていかなければならない。
- 計画を見直す際には、対策①~③だけではなく、C02排出量を評価するものも入れた方が良く思う。

2 市民・来街者意向把握調査の概要(速報) (1)調査概要、市民調査結果

(市民・来街者意向把握調査 調査概要 令和6年7月実施)

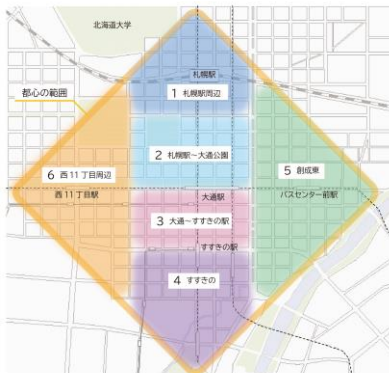
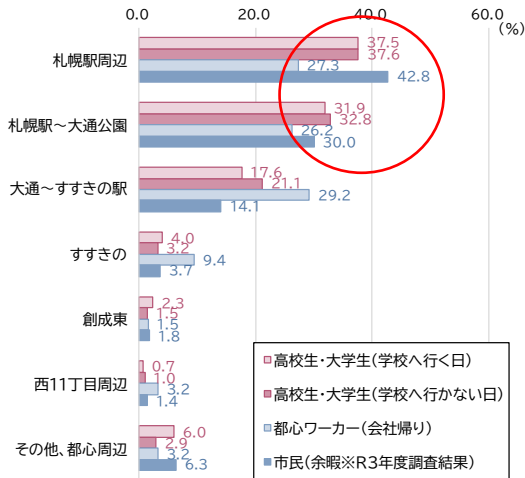
市民向け調査：「都心で働くワーカー」、「市内の高校生・大学生」を対象とし、インターネット調査を実施。

来街者向け調査：過去1年以内に道外から札幌都心を訪れた「国内からの来街者」を対象とし、インターネット調査を実施。また、「国外からの来街者」を対象に、街頭での対面調査を実施。

	調査対象	調査方法	回答数
市民	A 都心ワーカー	インターネット調査(調査会社)	600件
	B 高校生・大学生	インターネット調査(市内高校・大学へ依頼)	480件
来街者	C 国内からの来街者	インターネット調査(調査会社)	600件
	D 国外からの来街者	街頭での対面調査(4言語で対応)	113件

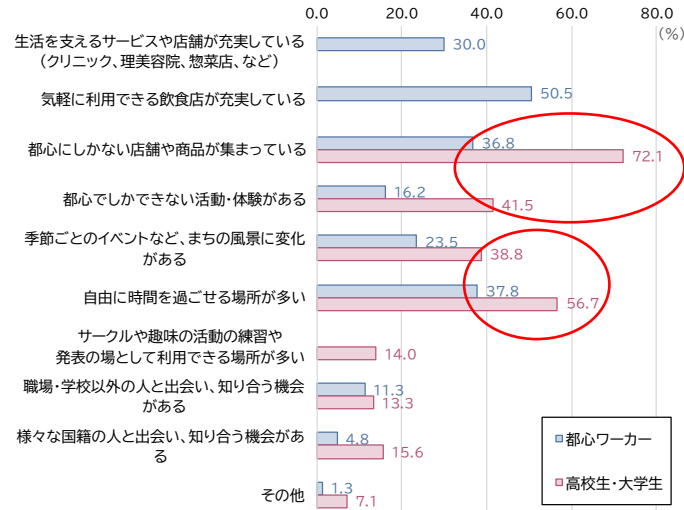
Q1 あなたは、都心のどのエリアで過ごすことが一番多いですか(単数回答)

✓札幌駅～大通公園の利用が多い



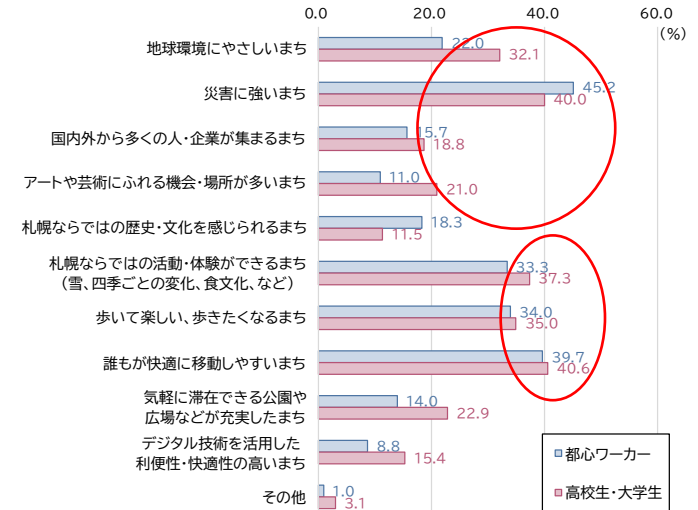
Q2 あなたは、都心がどのような場所だと何度も行きたくなくとも思いますか。(複数回答) ※対象ごとに項目設定が異なる

- ✓高校生・大学生は『都心にしかない』店舗や活動へのニーズが高い
- ✓都心ワーカー、高校生・大学生とも『自由に時間を過ごせる場所』への関心が高い



Q3 あなたは、これからの札幌の都心では、どのようなまちづくりを重視していくべきだと思いますか。重要だと思うものを3つまで選んでください。(複数回答、3つまで)

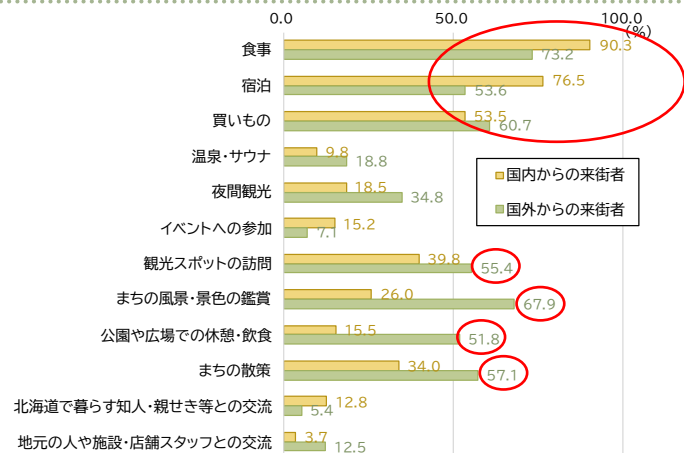
- ✓『都市の強靱化』、『札幌ならではの活動』、『歩行環境・移動環境』への関心が高い
- ✓高校生・大学生は『地球環境』、『アート・芸術』への関心が高い



2 市民・来街者意向把握調査の概要(速報) (2)来街者調査結果

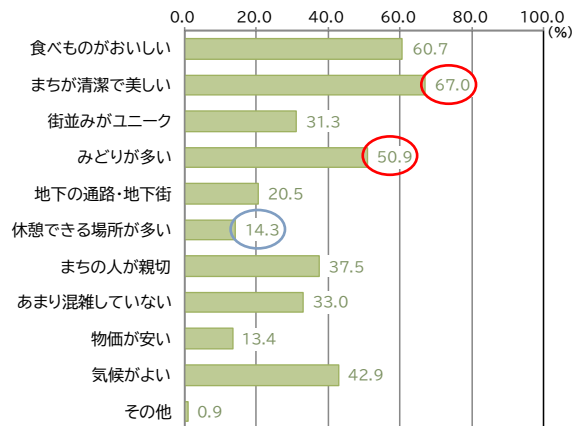
Q1 旅行中、都心でどのような活動をしましたか(する予定がありますか)。(複数回答)
 ※回答率が5%未満の項目を除く

- ✓「食事」「宿泊」「買い物」の回答率が高い。
- ✓国外からの来街者は「まちの風景・景色の鑑賞」「まちの散策」など、「まち」を楽しむ活動が多い。



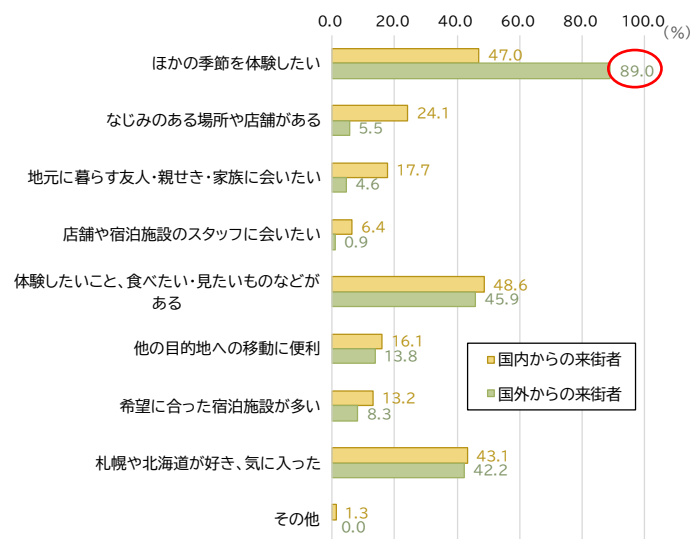
(国外からの来街者のみ)
 Q2 札幌都心で印象に残ったこと・訪れて良かったと思うことは何ですか。(複数回答)

- ✓「まちが清潔で美しい」「みどりが多い」の回答率が高い。
- ✓「休憩できる場所が多い」は他に比べ回答率が低い。



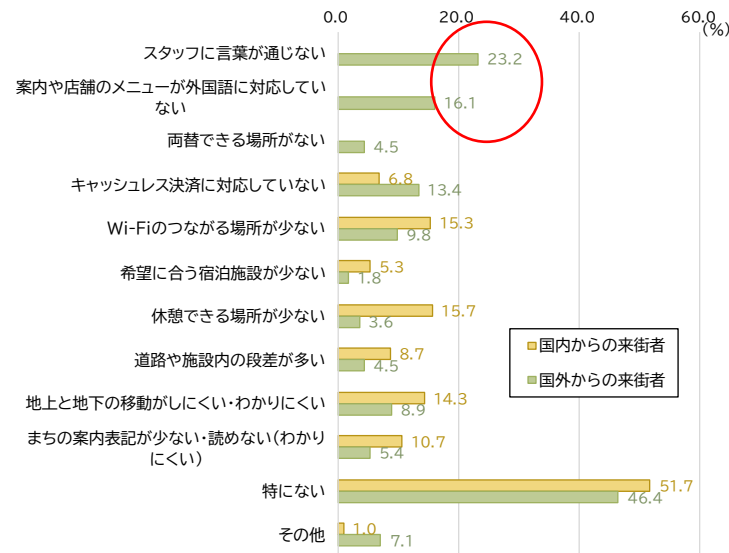
Q3 また札幌の都心を訪れたいと思う理由は何ですか(複数回答)。
 ※再訪希望のあった人のみ回答(国内:91.2%/国外93.7%)

- ✓国外からの来街者は「ほかの季節」の回答率が9割近くと高い。



Q4 都心での滞在中、困ったこと・不便だと感じたことはありましたか。(複数回答)

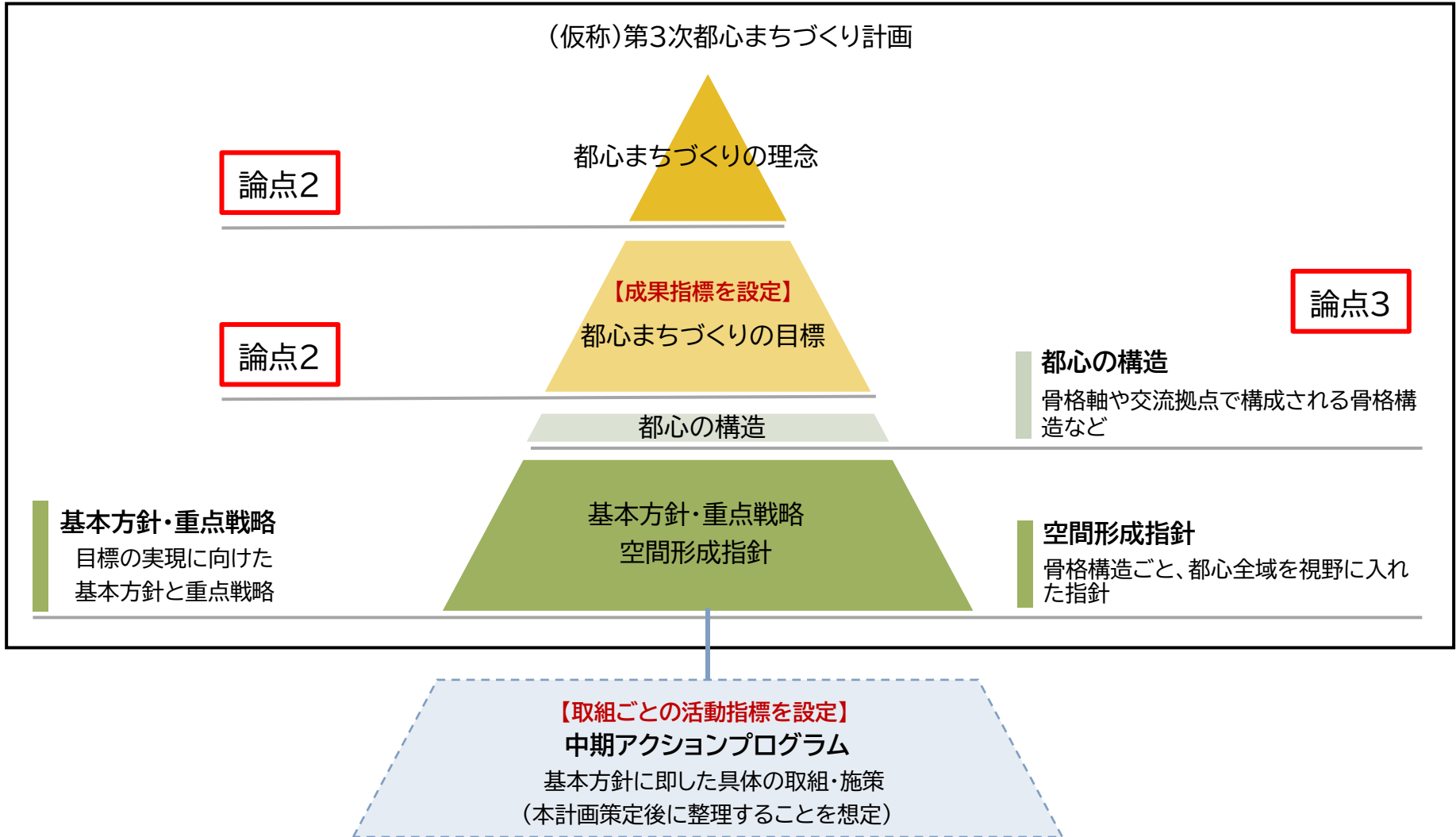
- ✓国外からの来街者は「言葉」の問題が他の項目に比べ高い。

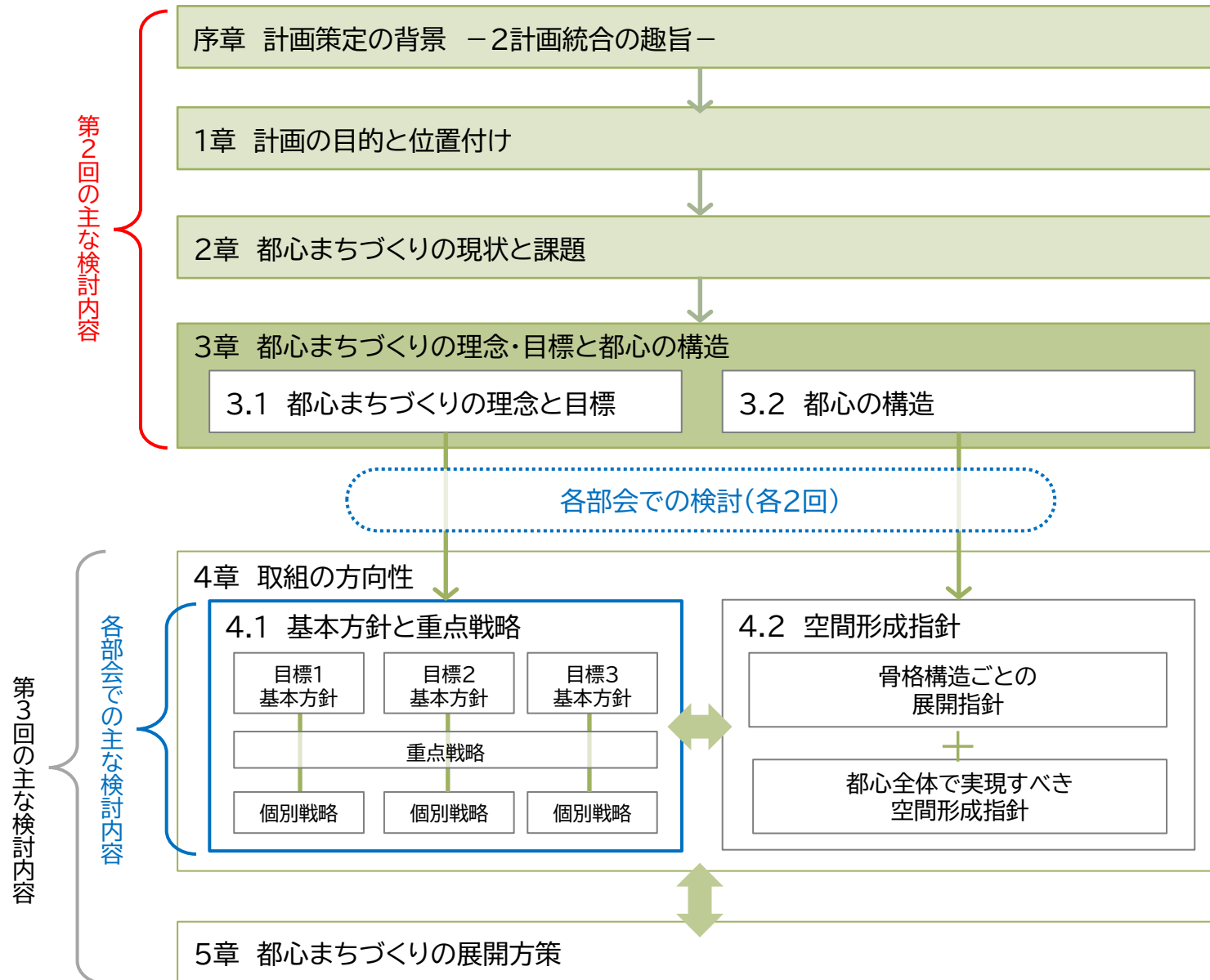


3 計画構成案 (1)計画構成イメージ図

論点1

- ✓ 本計画では、まちづくりの理念・目標、目標実現に向けた基本方針及び重点戦略を定めます。また、まちづくりを支える都心の構造を位置付けるとともに、骨格構造ごと及び都心全域を視野に入れた空間形成の指針を定めます。
- ✓ なお、具体的取組・施策については、中期アクションプログラムにて位置付けることを想定しています。

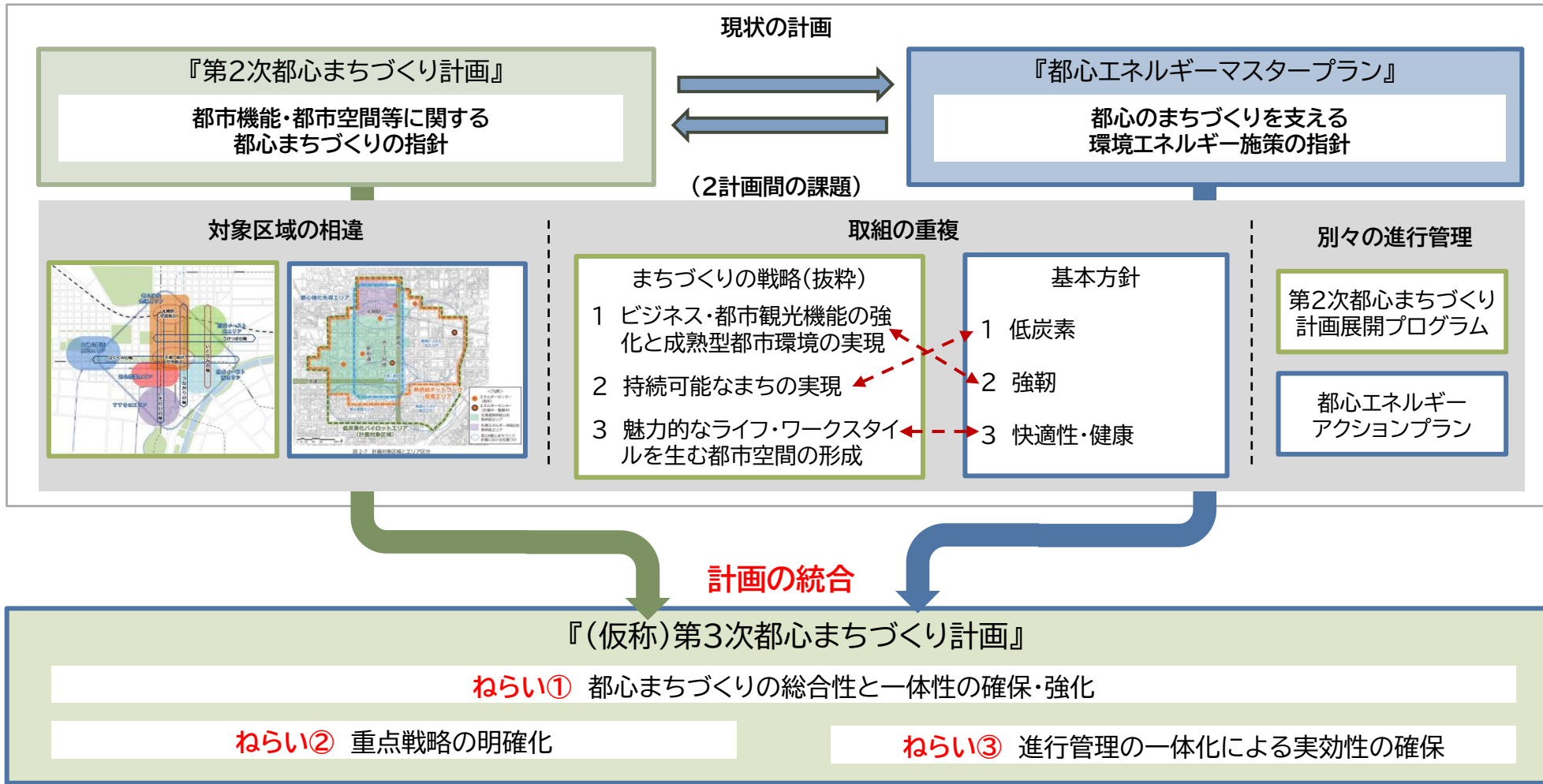




4 『(仮称)第3次都心まちづくり計画』事務局骨子案

■序章 計画策定の背景 - 2計画統合の趣旨 -

- ✓ 現在、都心のまちづくりは、「第2次都心まちづくり計画」と「都心エネルギープラン」を両輪の計画として進めていますが、対象区域の相違、取組の重複、別々の進行管理などの課題があります。
- ✓ これらの課題に対応し、都心まちづくりの総合性と一体性の確保・強化等を図るため、両計画を統合します。



4 『(仮称)第3次都心まちづくり計画』事務局骨子案

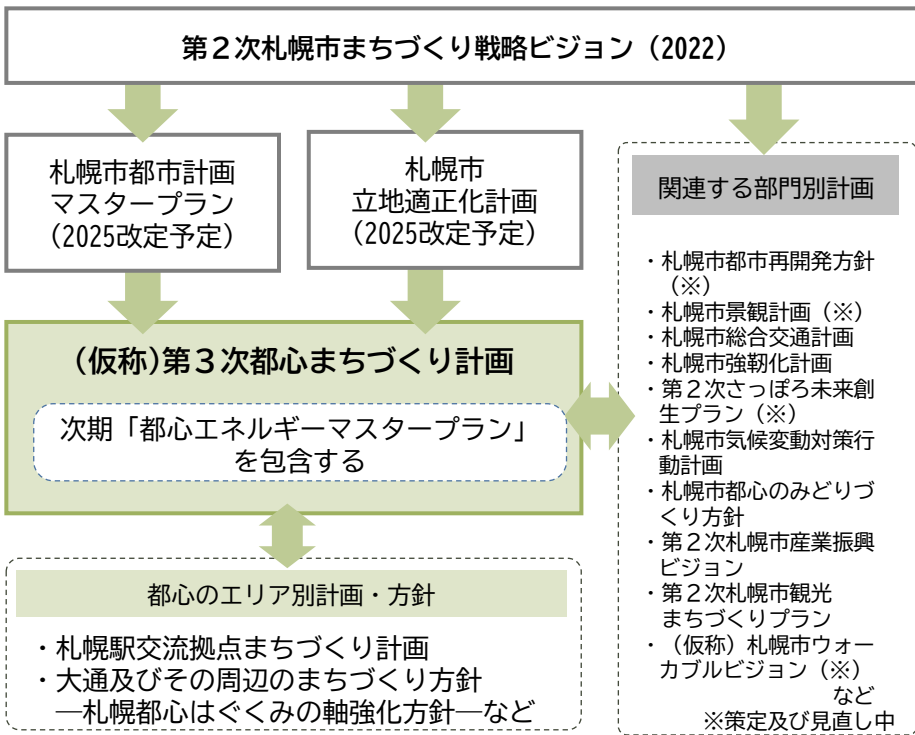
■1章 計画の目的と位置付け

1.1 計画策定の目的

○**長期的なビジョンの明確化**
 ・市民・事業者等とビジョンを共有する
 ・国内外へ札幌都心の可能性・魅力を発信する

○**「公民連携による推進方策」の共有**
 ・「公民連携によるまちづくりの取り組み方」を提示し、計画の実行性を確保する

1.2 計画体系、計画期間、計画対象区域 〈計画体系〉



〈計画期間〉 概ね20年

〈計画対象区域〉

- ✓ 第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンに示される都心の範囲を踏襲し、下図を計画対象区域とします。
- ✓ なお、都心周辺の高次機能交流拠点の取組と連携を図るなど、都心の機能強化につながる取組については、計画対象区域に関わらず柔軟に対応していきます。



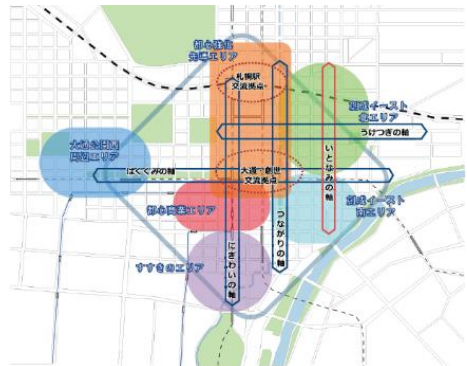
■ 2章 都心まちづくりの現状と課題 (1) 現行計画のふりかえり

※第1回検討会資料をもとに再整理

第2次都心まちづくり計画

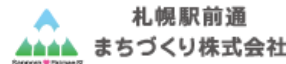
○骨格構造の強化に向けた都市空間の形成

- ✓ 骨格軸や交流拠点の形成
- ✓ オープンスペースネットワークの形成
- ✓ 地下ネットワークの形成
- ✓ 創造都市さっぽろを象徴的に発信する場の創出



○エリア単位のまちづくりの推進

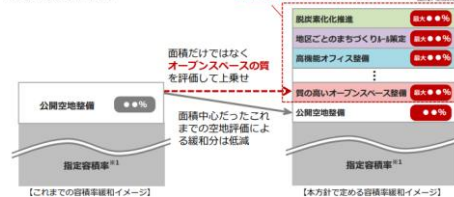
- ✓ エリアマネジメント組織の組成
- ✓ 地区まちづくり推進制度 (事前協議の仕組み) の創設



○開発の誘導

- ✓ 都心における開発誘導方針
- ✓ 札幌都心E!まち開発推進制度

●容積率緩和の考え方



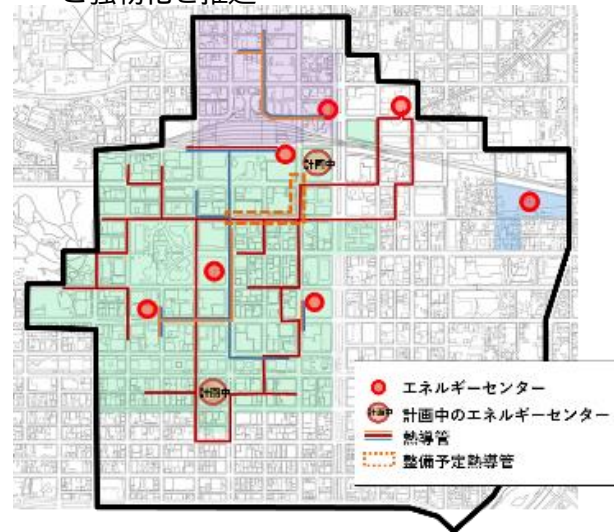
都心エネルギーマスタープラン

○目標数値の設定

- ✓ 2050年CO₂排出量：2012年比で80%削減

○エネルギーネットワークの整備拡充

- ✓ 大規模開発計画と連動したエネルギーネットワークの整備拡充
- ✓ エネルギーの面的利用の拡大により低炭素化と強靱化を推進



チ・カ・ホ (にぎわいの軸)



アカプラ (うけつぎの軸)



図書・情報館(大通・創世交流拠点)



創成川公園 (つながりの軸)



天然ガスCGS (創世エネルギーセンター)



一時滞在施設への電力・熱の供給(創世スクエア)

<これからの課題>
魅力的なストリートの形成

<これからの課題>
公共的空間の充実と活用

<これからの課題>
高次都市機能のさらなる集積

<これからの課題>
低炭素化から脱炭素化への取組の強化

2章 都心まちづくりの現状と課題 (2) 社会経済情勢の変化

※第1回検討会資料をもとに再整理

社会環境の変化

- ・人口減少局面へ突入
- ・少子高齢化の更なる進行
- ・都心、および周辺地域の人口増加

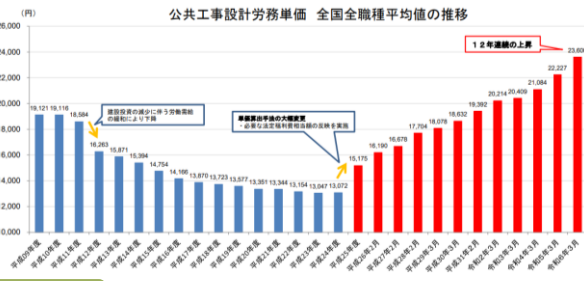
■札幌市の人口の将来見通し



<これからの課題>
多様な人々の受入環境の整備

経済環境の変化

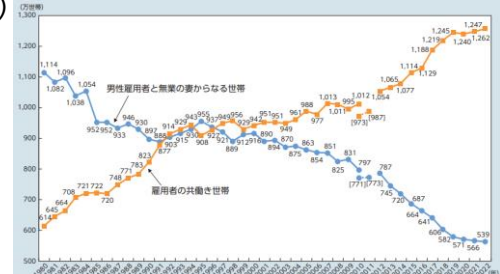
- ・人手不足による女性、高齢者の就業ニーズの高まり
- ・外国人労働者の増加
- ・建設コストの急激な高騰(人手不足、資材高騰)



出典:「令和6年3月から適用する公共工事設計労務単価について(国土交通省)」

ライフスタイル・価値観の多様化

- ・新たな価値観・行動様式(「共有・共用」(シェアリング)意識の高まり、共働き世帯の増加、など)
- ・消費行動の多様化(eコマース、コト消費の増加、など)



出典:令和5年版 厚生労働白書(厚生労働省)」

<これからの課題>
急速な社会の変化への柔軟な対応

自然環境の変化

- ・気候変動による自然災害の頻発化・激甚化
- ・脱炭素化推進の要請(2050年カーボンニュートラル実現目標の設定、GX2040ビジョン制定、木材利用促進法改正、エネルギー評価の転換の動き等)



<これからの課題>
災害リスクの高まりへの対応

将来の交通環境の変化

- ・北海道新幹線札幌延伸
- ・新たなバスターミナルや都心アクセス道路の整備
- ・新たな公共交通システムの導入



出典:総合交通政策調査特別委員会 資料3(R6)

<これからの課題>
都市活動を支える交通機能の維持・向上

デジタル革新の加速

- ・情報化社会の進展
- ・世界水準のデジタル社会実現の要請

国際情勢	1973-85年頃	1985-1995年頃	1995-2005年頃	2005-2015年頃	2015年~
国際情勢	・AT&T分割等	・冷戦構造終結 →技術・研究費等の民間への開放	・WTO発足と中国の加盟 ・Windows95販売 ・プラットフォームの誕生	・iPhone発売 →技術・研究費等の民間への開放 ・Windows95販売 ・プラットフォームの誕生	・国際情勢の複雑化 ・モバイル向け「アプリ」の拡大 ・COVID-19の世界的流行 ・地球温暖化の深刻化
通信/データ流通	1G 通信自由化 固定電話中心	2G 市場の競争激化 携帯電話とインターネットの普及(初期)	3G ネットワークの高速度・大容量化の進展 携帯電話の多機能化 プロトタイプへの普及	4G スマートフォンの急速な普及	5G BSG 物事を根本から変える社会・経済インフラ
サービスの高度化多様化	パソコン通信 初期パソコンの普及の始まり	ADSL(定額制) 展開ISP登場	imode・EZweb クラウドサービス SNS ネット動画	AIの進化 生成AI ネットワーク オンライン授業 メタバース	サービス・端末等の高度化・多様化 ICTの活用による新たな生活様式

出典:令和5年版 情報通信白書(総務省)」

<これからの課題>
DXの推進

4 『(仮称)第3次都心まちづくり計画』事務局骨子案

■ 2章 都心まちづくりの現状と課題 (3)これからの都心まちづくりの課題

第2次都心まちづくり計画策定後、札幌都心のまちづくりや人々に影響を与えた主なできごと

胆振東部地震・ブラックアウト(2018年)

(災害リスク低減・都市の強靱化に対する認識拡大など)

新型コロナウイルス感染症(2019年~)

(デジタル化の必要性、地方移住への関心の高まり、消費行動の多様化など)

まちづくりに係る環境変化

(オリパラ招致活動の停止、北海道新幹線札幌延伸の延期、建設コストの高騰など)

現行計画のふりかえり

第1回検討会・各部会の意見

社会経済情勢の変化

市民・来街者の意向

これからの都心まちづくりの課題

◆これまでの取組(強化・継続)
◇今後の方向性

高次都市機能のさらなる集積

- ◆業務、商業、医療、教育、文化芸術等の機能の充実
- ◆建替更新をとらえた容積緩和による開発誘導
- ◇容積緩和以外の誘導の手法や居住のあり方
- ◇人や投資を呼び込むための情報発信の強化

経済をけん引する役割の強化

- ◆ビジネス環境、観光機能の強化
- ◇産業政策と連携したイノベーションや産業を創出する仕掛け

多様な人々の受入環境の整備

- ◆バリアフリー対応
- ◇ユニバーサルデザイン、多言語対応

DXの推進

- ◇急速に進む技術革新への対応
- ◇最先端技術の活用促進

急速な社会の変化への柔軟な対応

- ◇社会実験等の受入体制や規制緩和への対応
- ◇計画の実行性を高める仕組み

魅力的なストリート形成

- ◆骨格構造、魅力的な景観、地上地下の重層的ネットワークの形成
- ◇積雪期の魅力とにぎわいの創出

都市活動を支える交通機能の維持・向上

- ◇交通機能と滞留機能のバランスと面的な機能分担
- ◇都心を目的地としない通過交通の分散
- ◇新幹線延伸など将来の交通環境変化への対応

公共的空間の充実と活用

- ◆民間開発誘導等によるオープンスペースの創出、エリアマネジメントによる空間活用
- ◇より柔軟な利活用を実現する仕組みや体制

低炭素化から脱炭素化への取組の強化

- ◆札幌都心E!まち開発推進制度による脱炭素化の取組誘導
- ◆都心の特徴であるエネルギーネットワークの活用
- ◇建物のライフサイクルを通じたCO2削減の視点

災害リスクの高まりへの対応

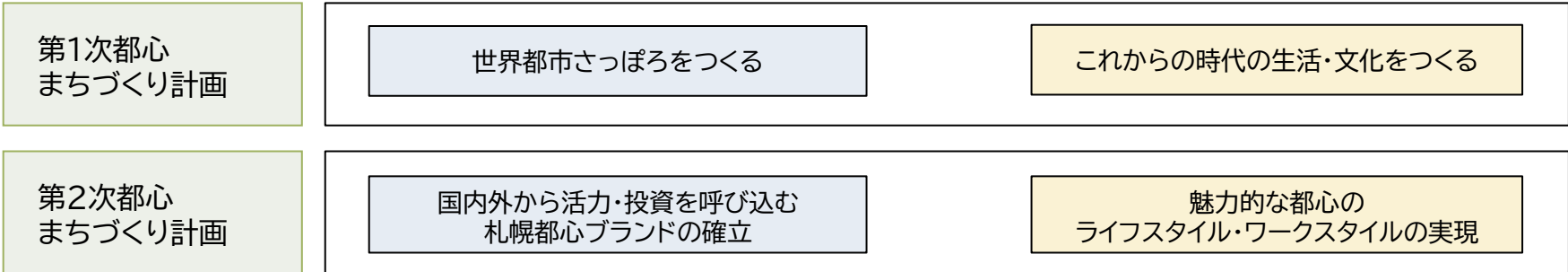
- ◆建物の建替えと連動した災害時の電力・熱の供給機能確保や一時滞在施設の整備
- ◇みどりの活用などによる気候変動への対応

これら変化する環境に柔軟かつ機動的に対応し、将来につながる都心のまちづくりを着実に進めることが必要

■3章 都心まちづくりの理念・目標と都心の構造

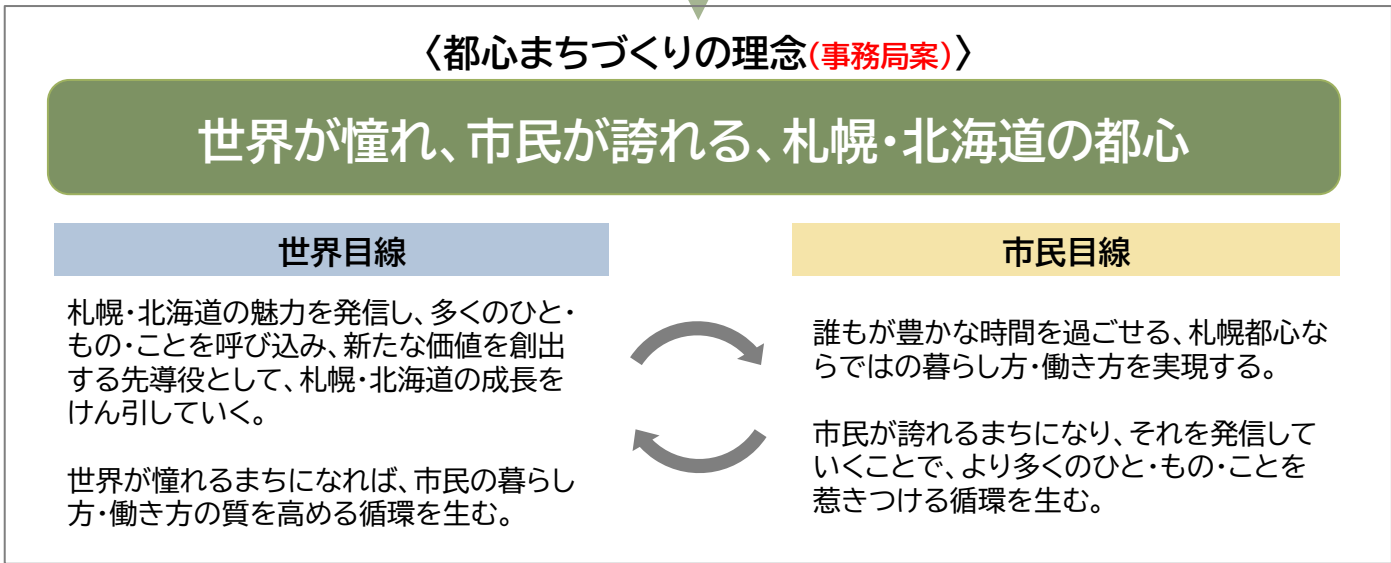
3.1 都心まちづくりの理念と目標 (1)都心まちづくりの理念

- ✓ これまでの計画では、『世界目線』『市民目線』の2つ視点で都心のまちづくりを進めてきました。
- ✓ 本計画でも考え方は踏襲しますが、より明快で共有しやすいフレーズに再整理し、理念として以下の通り設定します。



考え方は踏襲しながら、より明快で共有しやすい理念を設定

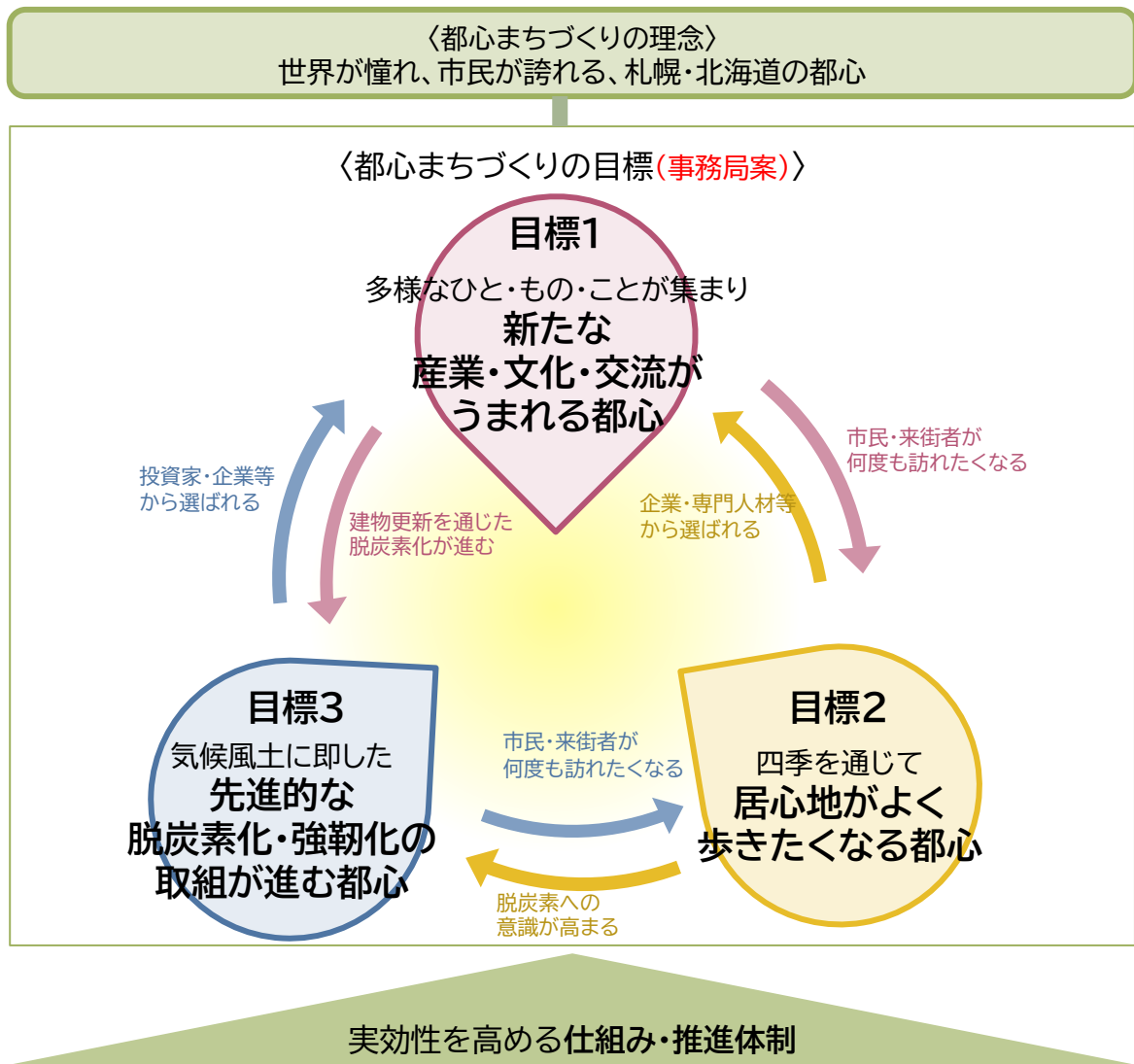
(仮称)
第3次都心
まちづくり計画



■3章 都心まちづくりの理念・目標と都心の構造

3.1 都心まちづくりの理念と目標 (2)都心まちづくりの目標

✓「都心まちづくりの理念」の実現に向けた目標を定め、各目標の関連性を意識しながら、札幌・北海道の魅力と活力の先導・発信を目指します。また、これらの目標を達成するため、実効性を高める仕組み・推進体制の構築を併せて推進します。



4 『(仮称)第3次都心まちづくり計画』事務局骨子案

■3章 都心まちづくりの理念・目標と都心の構造

3.1 都心まちづくりの理念と目標 (2)都心まちづくりの目標

都心まちづくりの課題(◆これまでの取組(強化・継続)、◇今後の方向性)

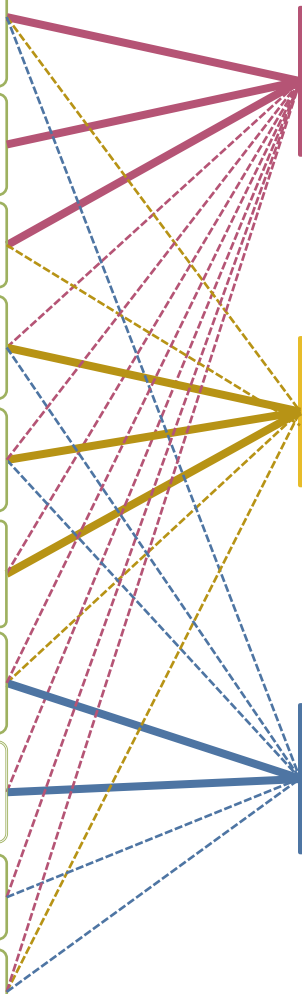
高次都市機能のさらなる集積	◆業務、商業、医療、教育、文化芸術等の機能の充実 ◆建替更新をとらえた容積緩和による開発誘導 ◇容積緩和以外の誘導の手法や居住のあり方 ◇人や投資を呼び込むための情報発信の強化
経済をけん引する役割の強化	◆ビジネス環境、観光機能の強化 ◇産業政策と連携したイノベーションや産業を創出する仕掛け
多様な人々の受入環境の整備	◆バリアフリー対応 ◇ユニバーサルデザイン、多言語対応
魅力的なストリートの形成	◆骨格軸の強化、魅力的な景観形成、地上地下の重層的ネットワークの形成 ◇積雪期の魅力とにぎわいの創出
都市活動を支える交通機能の維持・向上	◇交通機能と滞留機能のバランスと面的な機能分担 ◇都心を目的地としない通過交通の分散 ◇新幹線延伸など将来の交通環境変化への対応
公共的空間の充実と活用	◆民間開発誘導等によるオープンスペースの創出、エリアマネジメントによる空間活用 ◇より柔軟な利活用を実現する仕組みや体制
低炭素化から脱炭素化への取組の強化	◆札幌都心E！まち開発推進制度による脱炭素化の取組誘導 ◆都心の特徴であるエネルギーネットワークの活用 ◇建物のライフサイクルを通じたCO2削減の視点
災害リスクの高まりへの対応	◆建物の建替えと連動した災害時の電力・熱の供給機能確保や一時滞在施設の整備 ◇みどりの活用などによる気候変動への対応
DXの推進	◇急速に進む技術革新への対応 ◇最先端技術の活用促進
急速な社会の変化への柔軟な対応	◇社会実験等の受入体制や規制緩和への対応 ◇計画の実行性を高める仕組み

都心まちづくりの目標

目標1 多様なひと・もの・ことが集まり
新たな産業・文化・交流がうまれる都心

目標2 四季を通じて
居心地がよく歩きたくなる都心

目標3 気候風土に即した
先進的な脱炭素化・強靱化の取組が進む都心

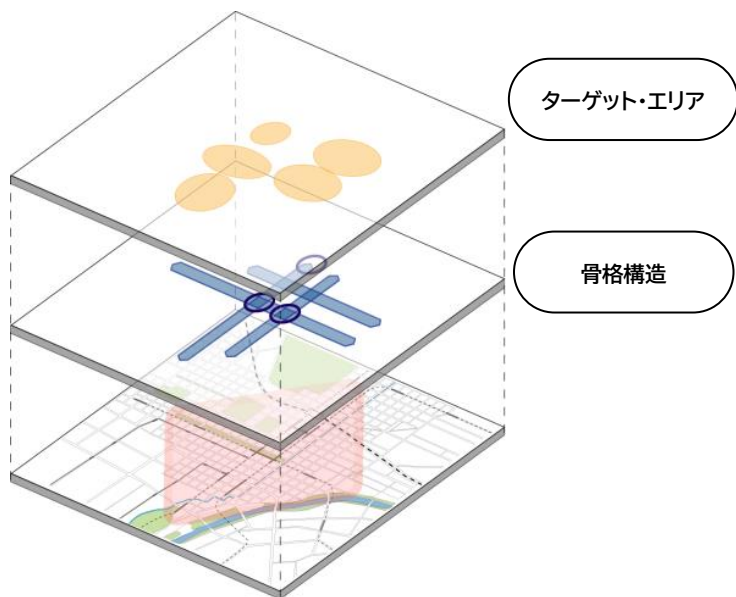


■3章 都心まちづくりの理念・目標と都心の構造

3.2 都心の構造 (1)『第2次都心まちづくり計画』の取組・成果

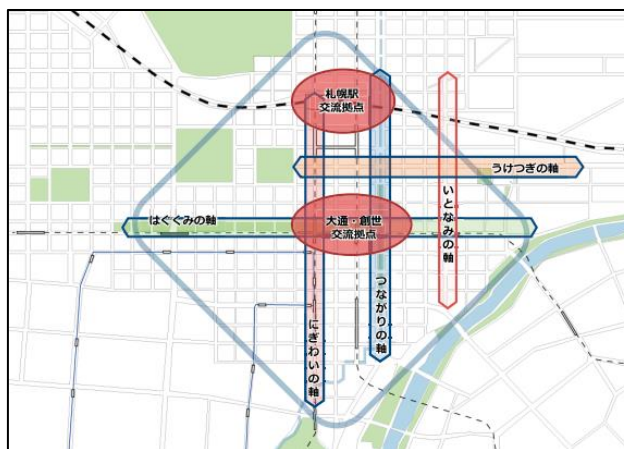
「構造の要素」

これまでの都心まちづくり計画では、まちづくりを進めるうえで拠り所となる要素として、骨格構造とターゲット・エリアを設定してきました。



「骨格構造」・「ターゲット・エリア」

① 骨格構造(4骨格軸・1展開軸・2交流拠点)



「骨格軸」

特有の役割や歴史的価値を持った4つの軸を都心まちづくりの基軸として設定

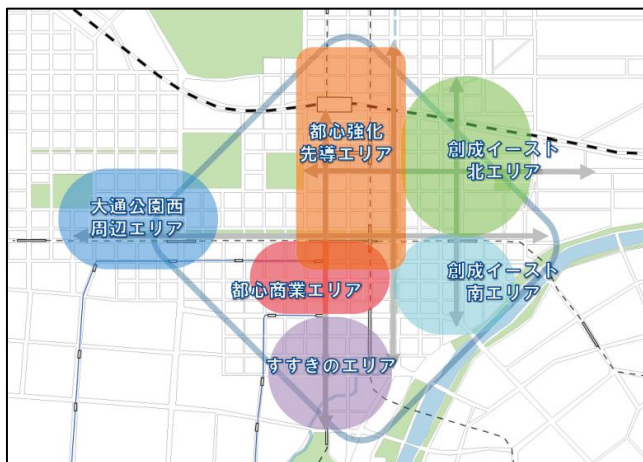
「展開軸」

創成川以東を含めたまちづくりを展開するため、東4丁目通(いとなみの軸)を設定

「2交流拠点」

交通結節点・骨格軸の交点を都心全体のまちづくりを先導する拠点として設定

② ターゲット・エリア

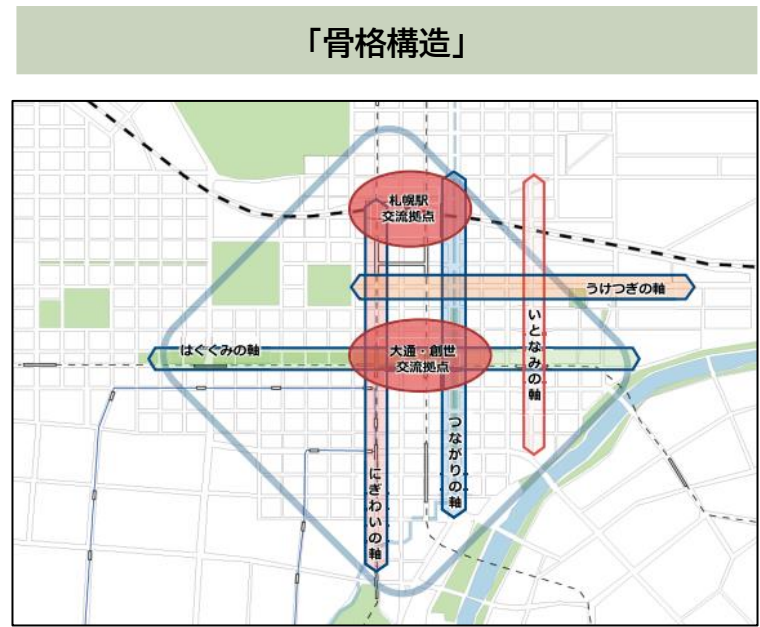


骨格軸・交流拠点の形成を戦略的に展開するために、これらと連動して面的な広がりでもちづくりを展開すべき地区を「ターゲット・エリア」として位置づけ

4 『(仮称)第3次都心まちづくり計画』事務局骨子案

■3章 都心まちづくりの理念・目標と都心の構造

3.2 都心の構造 (1)『第2次都心まちづくり計画』の取組・成果



骨格軸・展開軸 都心における様々な取り組みを促進する基軸

主な取組・成果	
にぎわいの軸 (駅前通)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域関係者・まちづくり会社の連携による地区計画やまちづくりルール等の策定、開発の事前調整 ◆ 沿道開発に伴う地下接続・エネルギーネットワーク接続の拡充
はぐくみの軸 (大通)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「大通及びその周辺のまちづくり方針」の策定 ◆ 大通公園のあり方検討
つなかりの軸 (創成川通)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 創成川公園における狸二条広場の活用 ◆ 都心アクセス道路の事業推進
うけつぎの軸 (北3条通)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 北3条広場の活用 ◆ 創成川以東の電線地中化等による景観の向上
いとなみの軸 (東4丁目線)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 歩道拡幅・電線地中化・クランク解消に向けた事業推進 ◆ 沿道における民間開発の進展

交流拠点 都心のまちづくりを先導する骨格軸の交点、交通結節点

主な取組・成果	
札幌駅 交流拠点	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 北5西1・2地区市街地再開発事業等の事業推進 ◆ 創成川東西市街地の連続性強化に向けた検討
大通・創世 交流拠点	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 創世スクエア開業に伴う新たな交流拠点機能の創出 ◆ 大通西4南地区市街地再開発事業の推進

総括・課題認識

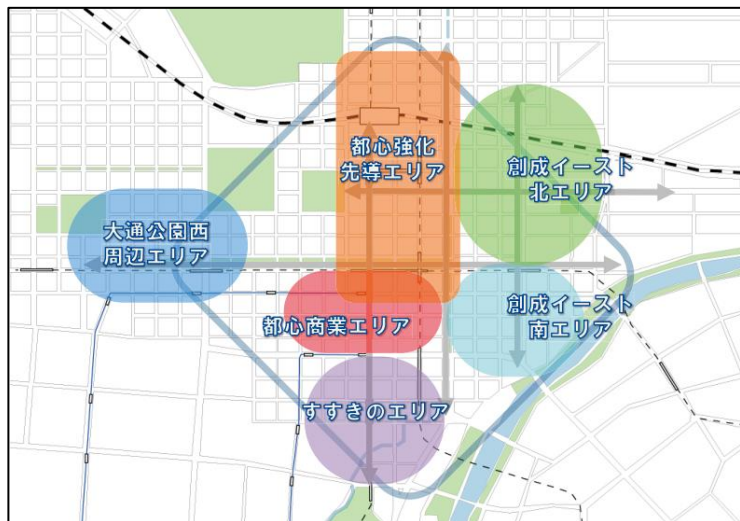
- にぎわいの軸は沿道の建替え更新が進み、エリアマネジメント主体の空間形成と活用が図られている
- はぐくみの軸及び大通・創世交流拠点は、次期計画期間でのまちづくりの展開が期待される
- いとなみの軸は道路整備や沿道の民間開発が進められている

4 『(仮称)第3次都心まちづくり計画』事務局骨子案

■3章 都心まちづくりの理念・目標と都心の構造

3.2 都心の構造 (1)『第2次都心まちづくり計画』の取組・成果

「ターゲット・エリア」



ターゲット・エリア

面的な広がりでもちづくりを展開する地区

主な取組・成果

都心強化先導エリア	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 駅前通沿道を中心とした民間開発の促進 ◆ 高機能オフィスや一時滞在施設の整備の誘導
都心商業エリア	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域関係者・まちづくり会社の連携による地区計画やまちづくりルール等の策定、開発の事前調整 ◆ 市電ループ化による公共交通機能の強化、にぎわいの創出 ◆ 歩きたくなるまちづくりに向けた社会実験等の実施
すすきのエリア	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「中島公園駅周辺地区まちづくり基本構想」の策定 ◆ すすきの駅や中島公園駅周辺における民間開発の促進 ◆ エリアの協議会における防犯活動・駐車対策の推進
創成イースト北エリア	<ul style="list-style-type: none"> ◆ いとなみの軸を中心とした民間開発や再開発の促進 ◆ 中央体育館跡地における水素モデル街区の整備 ◆ 地域関係者等によるまちづくりビジョンやまちづくりの推進体制の検討
創成イースト南エリア	<ul style="list-style-type: none"> ◆ まちづくり団体を中心とした公共的空間の活用等のまちづくりの推進 ◆ 地域関係者等によるまちづくりビジョンやまちづくりの推進体制の検討
大通公園西周辺エリア	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 芸術文化の館の閉館・解体に伴う跡地活用の検討

総括・課題認識

- 都心強化先導エリア、都心商業エリアは、まちづくり会社を中心に開発機運を活かした地区ごとのまちづくりルールが策定され、面的なまちづくりが展開している
- その他のエリアでは、個別の開発機運の高まりに対し、面的な広がりの中で関係者の連携を図る必要がある
- ターゲット・エリアとしての位置づけがないエリアにおける誘導方針が明確でない

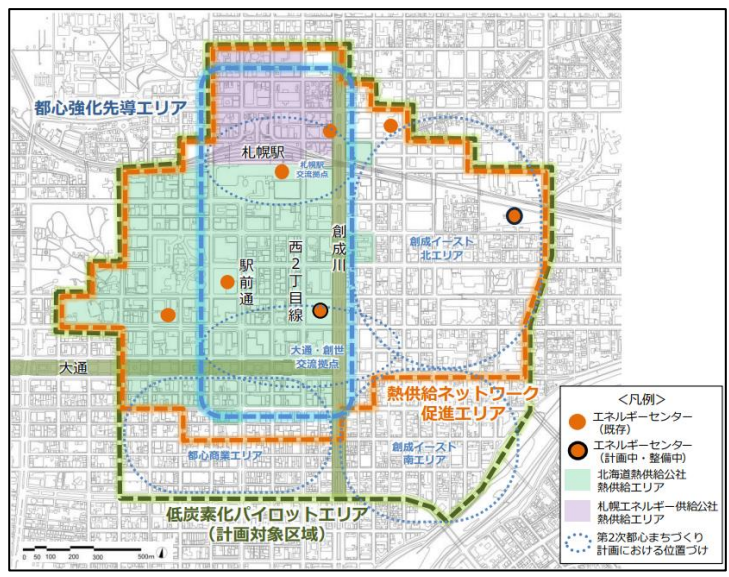
4 『(仮称)第3次都心まちづくり計画』事務局骨子案

■3章 都心まちづくりの理念・目標と都心の構造

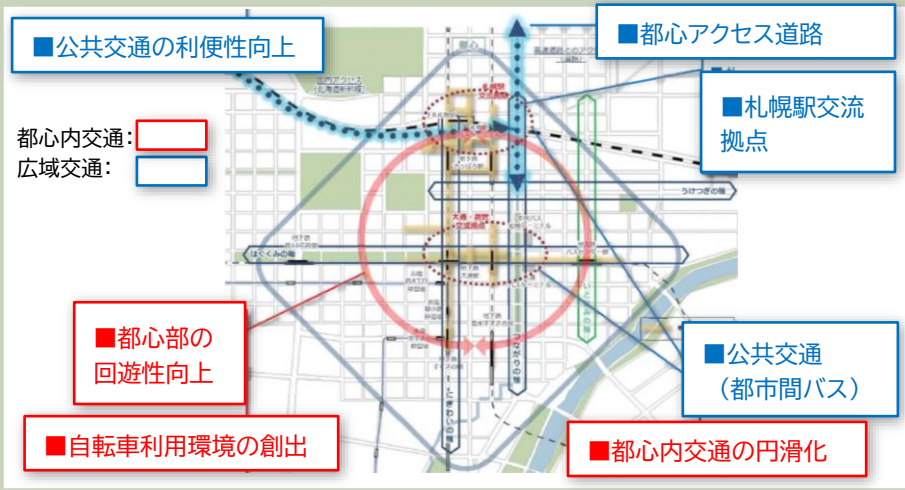
3.2 都心の構造 (2)都心まちづくり計画に関わる主な関連計画・動向

関連計画・動向① 都心エネルギーマスタープラン (平成30年3月策定)

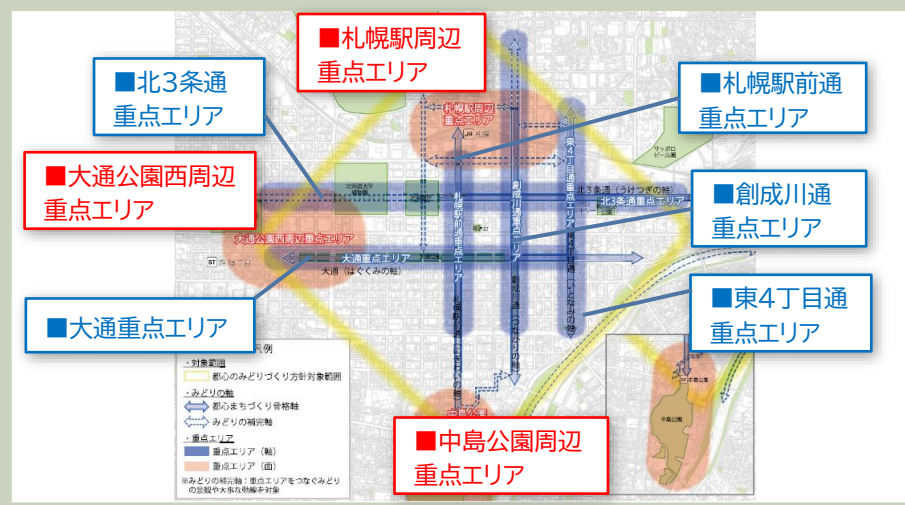
特徴	都心強化先導エリア (約90ha)	熱供給ネットワーク促進エリア (約190ha)	低炭素化パイロットエリア (約300ha)
特徴	第2次都心まちづくり計画で設定されたエリアであり、業務機能が集積し、北海道・札幌の経済活動や行政機能を支えるエリアとして、先進的な取組を積極的に進めるエリア	業務、商業、住居など多様な機能がみられるエリアであり、既存の地域熱供給の供給エリアをベースとして、将来的に面的なエネルギーネットワークを構築するエリア	計画対象区域全域において、小規模な建物も含めて都心にふさわしい先進的な取組により低炭素化を推進するパイロットエリア
低炭素	対策①：建物の省エネルギー化	計画対象区域全域で展開	
	対策②：エネルギーの面的利用	熱供給ネットワーク促進エリアで展開	波及
	対策③：再生可能エネルギー利用	計画対象区域全域で展開	
強靱 快適・健康	都心強化先導エリアで展開	波及	波及
		拠点開発を中心に展開	
		計画対象区域全域で展開	



関連計画・動向② 札幌市総合交通計画 (平成24年策定・令和2年改定)



関連計画・動向③ 札幌市都心のみどりづくり方針 (令和5年10月策定)



4 『(仮称)第3次都心まちづくり計画』事務局骨子案

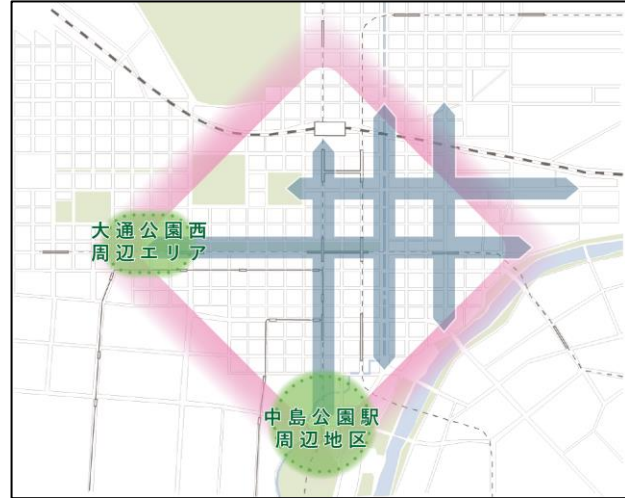
■3章 都心まちづくりの理念・目標と都心の構造

3.2 都心の構造 (2)都心まちづくり計画に関わる主な関連計画・動向

関連計画・動向④ 中島公園駅周辺地区、大通公園西周辺エリア

近年、骨格軸の端点において、まちづくりの構想・ガイドラインの策定・検討を行っているエリア

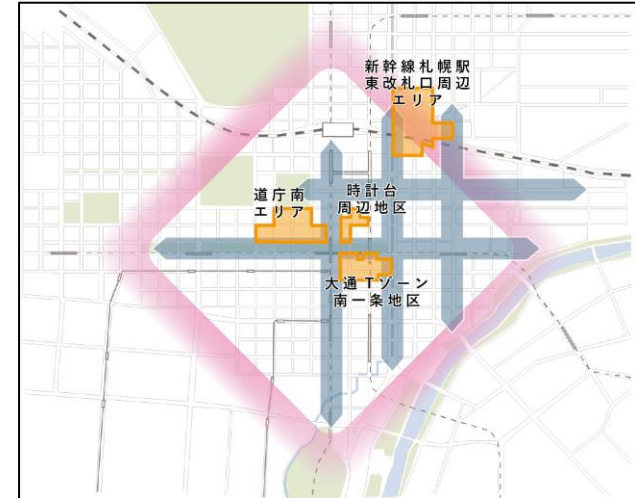
- | | |
|--------------------|--|
| 中島公園
駅周辺
地区 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 都心南端の新たな拠点の形成を目指し、公園や河川、文化施設、歴史資源などを生かしたまちづくりとMICEの開催を支える機能の誘導等の取組を推進 ※ 『中島公園駅周辺地区まちづくり基本構想』(令和3年度策定)に基づき、『(仮称)中島公園駅周辺地区まちづくりガイドライン』策定に向け検討中 ※ 中島公園とその周辺は、「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン(令和5年度策定)」で「高次機能交流拠点」に位置付け |
| 大通公園
西周辺
エリア | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 美しいみどりや歴史・文化芸術を生かした多様な交流を創出 ※ 『大通及びその周辺のまちづくり方針—札幌都心はぐくみの軸強化方針—(令和5年度策定)』に基づき、『(仮称)大通公園西周辺エリアまちづくりガイドライン』策定に向け検討中 |



関連計画・動向⑤ 新たなまちづくりの動きがあるエリア

近年、骨格構造の周辺において、民間事業者の発意により複数街区でまちづくりの検討・取組が進められているエリア

- | | |
|-------------------------|---|
| 新幹線札幌駅
東改札口
周辺エリア | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 新幹線札幌駅東地区まちづくり勉強会を発足 ◆ 令和6年度よりガイドライン案の検討を開始 |
| 道庁南
エリア | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 道庁南エリア研究会が発足 ◆ 「道庁南エリアまちづくりビジョン」を策定し、ビジョンの実現に向けた検討・社会実験を実施 |
| 時計台周辺
地区 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 時計台周辺地区まちづくり協議会を発足 ◆ 地区計画・地区まちづくりルールを策定 |
| 大通Tゾーン
南一条地区 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 大通Tゾーン南一条地区まちづくり協議会を発足 ◆ 地区まちづくりルールを策定 |

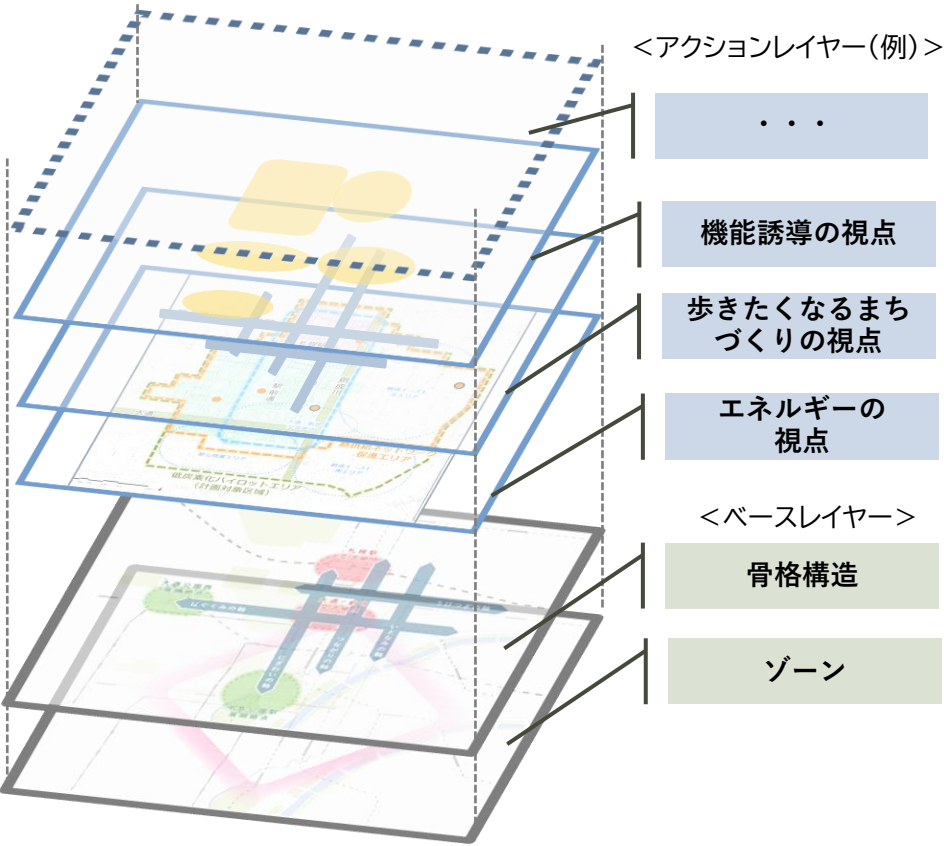


■3章 都心まちづくりの理念・目標と都心の構造

3.2 都心の構造 (3)『(仮称)第3次都心まちづくり計画』の都市構造

構造の要素(案)

- ✓骨格構造と、地域特性を踏まえたゾーンを、ベースレイヤーとして設定します。
- ✓従来のターゲット・エリアという位置づけではなく、戦略ごとに重点的に展開するエリアを、アクションレイヤーとして重ねていきます。



骨格構造(案)

【軸】 4骨格軸-1展開軸を継承

現行計画を継承し、4つの骨格軸、1つの展開軸を設定します。

【拠点】 2交流拠点+2展開拠点の設定

現行計画の2交流拠点に加えて、地域特性を活かしたまちづくりを重点的に展開し、**新たな活動・交流を育む「展開拠点」として2拠点を追加**で設定します。

